

岐阜県

岐阜県健康福祉部保健医療課
有賀 玲子

1. 岐阜県の概要

岐阜県は日本のほぼ中央に位置し、面積は約1万62平方キロメートルで、全国第7位の広さを誇り、7つの県に囲まれた数少ない内陸県の一つ。人口は、2,033,631人（平成27年5月1日現在の県内推計）。県北部の飛騨地域は、標高3000mを超える山々が連なり、南部の美濃地域には、濃尾平野に木曾三川が流れ、豊かな自然に恵まれている。古くからのづくりが盛んで、製造業が県の中心的な産業となっている。

2. 岐阜県がん登録の歴史

岐阜県地域がん登録は平成6年にモデル地域として飛騨圏域で実施され、翌年より県全域で開始された。現在、岐阜県庁内に地域がん登録室が設置されている。平成24年度まで、届出票の配布・収集を医師会に委託して事業をしてきたが、平成25年度よりすべての事業を県直営とした。併せて標準DBSを導入し、平成23年症例まで岐阜県独自のシステムによる登録が行われていたが、平成24年症例より標準DBSで登録となった。

3. 登録室紹介

地域がん登録室は、昨年度より独立した部屋が設置された。登録体制は、行政事務担当1名、登録実務担当2名で行っている。



岐阜県地域がん登録室のスタッフ



ミナモ

清流の国ぎふ

4. 現状と課題

岐阜県では、平成18年に都道府県がん診療連携拠点病院に岐阜大学医学部附属病院が指定された。他に6病院が地域がん診療連携拠点病院に指定されている。届出票の提出は、5年前の2倍を上回り平成26年度は、20,408件あった。DPC対象病院からの提出が急増した影響が大きい。拠点病院からは全体の約68%を占めている。ほとんどが紙での届出で電子化の試みは、まだ、2施設のみ。

県独自の登録システムでは、遡り調査を実施できなかった。標準DBSに切り替り、遡り調査の実施が開始される。全国がん登録に向け移行するデータの準備も必要。

5. 最後に

標準DBSでの初めての集計作業と全国がん登録への移行、今後、さらに増える届出票の対応等、人員不足の中の業務は厳しいものがある。電子化により作業の効率向上が期待できそうではあるが、そこに辿り着くまでの道のりは険しい。医療機関との連携が不可欠だが、地域がん登録の研修会などを県で行っていない。

色々と皆様にご教示いただくことばかりになると思います。その節は、ご指導ご鞭撻のほど宜しく願います。